

新学術創成研究科 融合科学共同専攻
【授与する学位】修士（融合科学）

大学（大学院）の目的	学類（研究科）の教育研究上の目的
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。	新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問分野・学問領域の創成につながる領域融合的な研究による成果を基盤に大学院教育を実施し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業界等を育成することを目的とする。博士前期課程融合科学共同専攻は、グローバル社会のニーズや動向を察知し、様々な科学的知見と先端科学技術を基に、科学技術イノベーションに協奏的・共創的に貢献できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
博士前期課程では、教育理念に掲げる4つのフォースを基礎とした“科学を融合する方法論”を探究・実践した上で、下記の「学修成果」に掲げる5つの能力・資質（コンピテンス）を修得するとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、修士論文の審査及び最終試験、若しくは特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格した学生、又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に「修士（融合科学）」の学位を授与する。	教育理念に掲げる3つのチャレンジの枠組みの下で、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果に到達するため、“課題解決志向型”の教育内容・手法を重視し、学生が教育プログラムの履修を通して身に付けるべき要素を踏まえた体系的なカリキュラム（教育課程）を編成する。具体的には以下の科目群を体系的に構成・配置するカリキュラム（教育課程）を編成する。	学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、専門が異なる分野にも関心を持って他者との協奏的活動に取り組み、複雑で困難な問題を分野融合の力で解決し、社会の発展のための新しい価値を積極的に創造しようとする強い意欲を持つ者を受け入れる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
1.科学技術イノベーションに関連する社会課題の解決に貢献できる能力 2.自分の専門分野に関する知識と実践力 3.他分野に対して積極的に関与する意欲と能力 4.外国語の学術論文を読みこなし、自分の研究を外国語で簡単に説明できる能力 5.科学・技術・生命に対する研究者倫理観	「グローバル社会のニーズや同項を察知し、様々な科学的知見と先端科学技術を元に、科学技術イノベーションに協奏的・共創的に貢献できる人材」を育成すべく、既存の科学分野を超える枠組みの下で、科学を融合する方法論を探究・実践しながら社会におけるニーズや同項を察知し、化学技術イノベーションに関連する社会課題の解決に資する基礎能力を修得させるため、以下の科目を配置する。1.自分の専門分野に関する基礎的な知見を修得・活用させるための体系的な専門科目と研究支援科目 2.分野融合セミナー・グループワークや異なる分野における研究などの異分野融合を主とした異分野「超」体験科目 3.社会のニーズを踏まえた実践的教育を行うための社会実装科目 4.イノベーションの創出に関する基盤的知識や態度を涵養する専攻共通の基幹教育科目	学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、専門が異なる分野にも関心を持って他者との協奏的活動に取り組み、複雑で困難な問題を分野融合の力で解決し、社会の発展のための新しい価値を積極的に創造しようとする強い意欲を持つ者を受け入れる。
	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
	(1) 学修成果の評価については、シラバス及び入学年度毎に発行するガイドブックに記載する。 (2) 論文、特定の課題についての研究成果の審査及び博士論文基礎力審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。	学士課程等で修得してきた分野の基礎的専門知識及び分野融合による新しい価値を創造しようとする意欲を重視し、小論文、口頭発表、面接、口頭試問の結果を総合的に判断する。
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】